

文化財ニュース いわき

第 67 号

平成 24 年 2 月 1 日

財団法人いわき市教育文化事業団
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

がき どう よこ あな ぐん 餓鬼堂横穴群の発掘調査

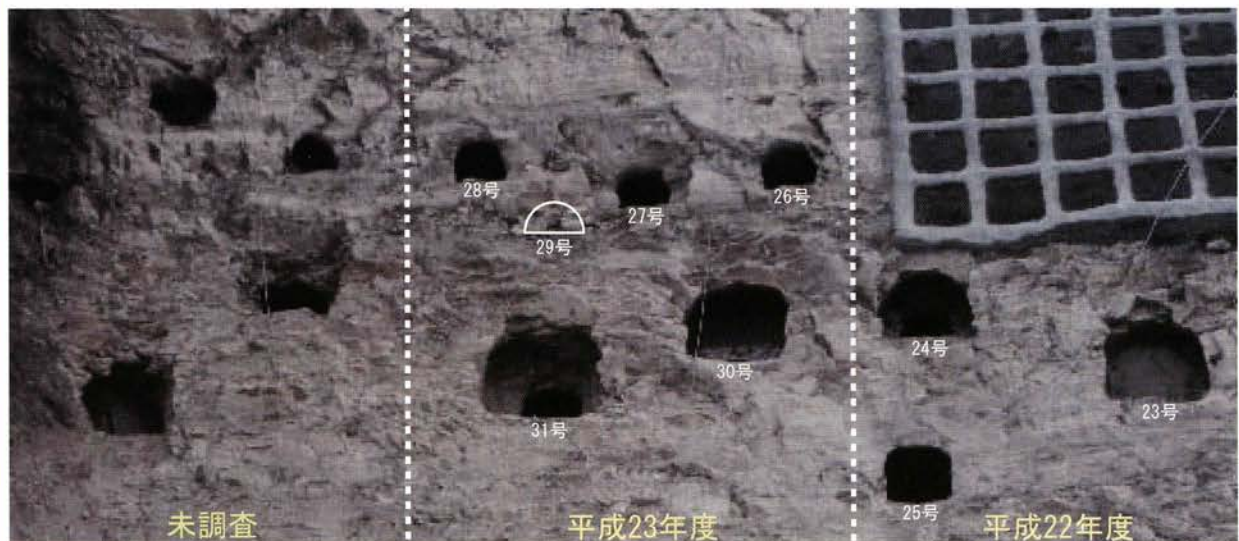
—平成23年度 調査成果—

餓鬼堂横穴群は、いわき市平薄磯字餓鬼堂・北ノ作地内にあります。薄磯海岸の北端にあたり、海岸線からはおよそ西に200m、標高約20mの崖の中腹に今から約1300～1400年前に掘られたお墓が、数多く見つかっています。

発掘調査は平成17年度からおこなわれており、平成22年度までの調査で、鉄製の武具や馬具・工具、^{まがたま}勾玉・ガラス製小玉などの副葬品のほか、土器・人骨など貴重な資料が多数出土しています。昨年度調査された23号横穴は、天井が屋根のような形につくられ(家形)、天井と壁が赤く塗られているものです。

今年度は5基の調査をおこないました。とくに30号横穴は、23号横穴のように家形につくられていて、天井に赤色顔料で数多くの円が描かれ、装飾されていることがわかりました^{註1)}。ここからは銅製の鏡や腕輪、^{こはく}勾玉・^{なつめだま}琥珀製の棗玉などが発見されています。

このように、今年度の調査でも新たな発見が相次ぎました。このことは、近くに所在する国の史跡中田装飾横穴との関連性をはじめ、当地域の歴史を解明するための大きな一助となることでしょう。



調査した横穴 (29号は未調査)

註1) 南相馬市浪岩18号横穴・羽山1号横穴などで一部類似した模様が見られる。市内では、中田装飾横穴・腰巻A18号横穴・餓鬼堂23号横穴に続き4例目。

とじておきましょう。



天井は四隅に稜をもつ家形をしています。



赤い円が天井に描かれています。



3条の排水溝がつくられています。

家形構造を持つ装飾横穴（30号）

30号横穴の遺体を安置した部屋（^{げんしつ}玄室）は、全長3.1m、幅3.4m、高さ2.1mの規模を測ります。天井の形は、23号横穴と同様に、四隅に稜をもつ家形をしていました^{註2}）。

天井の表面には6 cm程度の赤い円が100個以上描かれており、^{りょうせん}稜線にも赤色顔料が塗られていました。奥の壁は大部分が崩落していますが、その破片をみると赤く塗られているものもあり、別の模様が描かれていた可能性があります。

これらの模様は、古代の人々の死生観を表現しているものとも考えられます。たとえば、赤い円を星とみるならば、何か天文学的な意味を持っていたのかもしれませんが。

（ 2 ） 註2）家形の形態をもつ横穴としては、いわき市小山横穴、泉崎村泉崎横穴、南相馬市大窪10号横穴、福迫23号横穴などが知られている。



横穴出土銅鏡 (30号)



横穴出土銅釦 (30号)

30号横穴の副葬品

銅鏡は、玄室中央付近から出土しました。直径は7.8cmほどで、背面の紐の外側に珠点を巡らした連珠文鏡系と呼ばれる種類であると考えられます^{註3)}。

また、鏡のすぐ隣からは銅釦が出土しています。直径は約8cm、厚さ約0.5cmの青銅製の腕輪です。

他にも、ヒスイでつくられた勾玉や管玉、琥珀でつくられた棗玉などのさまざまな玉類が出土しています。埋葬された人のアクセサリだったのでしょうか。



横穴出土玉類 (30号)

27号横穴

玄室の規模は、全長2.1m、幅2.6m、高さ1.9mです。天井の形はドーム型ですが、その途中まで稜を有しており、家形を意識しているものと考えられます。また、床面は壁に沿って垂直にノミが入れられ、「コの字」状にやや高くなっています。これは、遺体を安置する台（屍床）を意図したものである可能性が考えられます^{註4)}。



入口を塞いだ石が一部残っていました。(27号)

屍床は、南九州、特に熊本県に特徴的な施設であり、仮に27号がこれに類するものをもつとするならば、家形の玄室形状と同様に何らかの関連性を持っていたことが想定されます。

註3) 市内では、中田装飾横穴から、珠文鏡と呼ばれる鏡が出土している。

註4) 県内では、いわき市小申田18号横穴、新地町木崎4号横穴、南相馬市羽山1号横穴などがある。

とじておきましよう。



矢筒が出土した状況 (27号)



横穴出土遺物 (右:鉸具、左:鞍金具) (27号)

27号横穴の副葬品

玄室へ続く道(羨道)から、矢を入れる矢筒、鉄製のベルト金具(鉸具)や、馬の鞍につける青銅製の金具(鞍金具)、玉類などが出土しており、その内容は30号と比較しても全く遜色ありません。

矢を入れる筒(軋あるいは胡籛)には矢じりが並び、鉾を打った鉄板がそのまわりを囲んでいます^{註5)}。今後の資料整理により構造の解明が期待されます。

横穴の副葬品

26号横穴からガラス小玉を連ねた腕輪、28号横穴から鉄製品と玉類、31号横穴から馬具と玉類、須恵器などの副葬品が出土しています。

埋葬品の中には、中央政権から与えられたと思われるものもあり、これらは埋葬された人々と中央政権との間に、強い結びつきをうかがわせる資料といえます。



ガラス小玉の腕輪 (径約10cm) (26号)



横穴出土長頸壺 (31号)

31号横穴から多くの土器が出土しています。完全な形を保っているものも多く、横穴の年代決定など、ほかの副葬品と同じく、地域の歴史を考えるうえで非常に重要な資料です。

これらの土器はおおよそ6世紀の終わりごろから、7世紀の始めごろのものであると考えられます。

(4) 註5) 市内では、八幡横穴・館山2号横穴に鉄鉾板の出土例がある。

とじておきましよう。